

(第十七部)

第七回 参議院経済安定委員会会議録第二号

昭和二十五年三月三十一日(金曜日)午前十一時三十二分開会

委員の異動

本日委員田口政五郎君、池田七郎兵衛君及び栗栖赳夫君辞任につき、その補欠として左藤義詮君、川村松助君及び安達良助君を議長において指名した。

本日の会議に付した事件

○臨時物資需給調整法等の一部を改正する法律案(内閣提出、衆議院送付)

○外國為替及び外國貿易管理法の一部を改正する法律案(内閣提出、衆議院送付)

○臨時物資需給調整法等の一部を改正する法律案(内閣提出、衆議院送付)

(院送付)

○委員長(佐々木夏作君) それでは委員会を開会いたします。今日の委員会は第三回の委員会になると思ひます

が、前回は二十三日を開きました。臨時物資需給調整法等の一部改正法律案を議題にして、提案理由の説明を聽取しましたから、若し質疑がありましたら早速お願ひいたします。

○帆足計君 すでに御質問も出たこと

と思ひますので、極く簡単に御返答願

つて結構なだけで、需給調整法は物

資の不足のときの需給のバランスをと

るためにできた法律でありますから、物

資の需給が段々採れ、物によつては、

絶対的でありますけれども、物資が過

剩になりました今日、この法律は一ヶ

年延長しますけれども、今後の見通し

としては、需給調整は政府当局としては

どういうふうにおとりになるおつもり

ます。今後物資の過剰に対する対策と

しては、需給調整は政府当局としては

なつておりましたけれども、時間がな

くなつてはやれずになつております。

従いまして今日の委員会の議題は、第一には臨時物資需給調整法等の一部を改正する法律案と、それから外國為替

及び外國貿易管理法の一部を改正する法律案、両案とも期限切れの法律である

りまして、審議を急がれている事情もありましたので、先ずこれを御審議願い

まして、若し時間がありましたならば、請願の十三件、陳情の二件があり

て需給の調整を図る必要のあるものに

ますから、時間がありましたならばそ

の審議に入つて頂きたい、こう思いま

す。今のような順序で議事を進めるこ

とに御異議ありませんか。

〔異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長(佐々木夏作君) それでは最

初臨時物資需給調整法等の一部を改正

する法律案を議題にいたしますが、先

程申上げましたように、質疑の継続中

でありますから、若し質疑がありましたら早速お願ひいたします。

○帆足計君 十で御質問も出たこと

と思ひますので、極く簡単に御返答願

つて結構なだけで、需給調整法は物

資の不足のときの需給のバランスをと

るためにできた法律でありますから、物

資の需給が段々採れ、物によつては、

絶対的でありますけれども、物資が過

剩になりました今日、この法律は一ヶ

年延長しますけれども、今後の見通し

としては、需給調整は政府当局としては

どういうふうにおとりになるおつもり

ます。今後物資の過剰に対する対策と

しては、需給調整は政府当局としては

なつておりましたけれども、時間がな

くなつてはやれずになつております。

従いまして今日の委員会の議題は、第一には臨時物資需給調整法等の一部を

改正する法律案と、それから外國為替

及び外國貿易管理法の一部を改正する

法律案、両案とも期限切れの法律である

りまして、審議を急がれている事情もありましたので、先ずこれを御審議願い

まして、若し時間がありましたならば、請願の十三件、陳情の二件があり

て需給の調整を図る必要のあるものに

と思ひますので、極く簡単に御返答願

ついては個別的な問題として取扱つて

行くということにいたすべきであろう

といふに考えます。

○帆足計君 この法案は事業團体に関

係のある法案であります。只今、例

えば生糸が暴落しまして組織物業者が

申合せをして一齊に休業しております

。國に原料があり設備があり、そ

してこれを……組織物は我々は決して

不必要でなく、使いたいのであります

が、ただ金がないという経済政策の

行過ぎのデフレから、ただそれだけの

理由のために工場が閉鎖されるという

ことが行われておりますが、こ

れが自由主義的な資本主義機関の基本

的な欠陥であつて、近來の社会問題は

すべてここから発生しているわけであ

ります。ところが最近組織物業者がこ

れに対処する方法が、適切な方法がな

いために休業の申合せをして、そし

て暫く滞貨が捌けるまで仕事を止める

というような申合せをしておることが

新聞に載つております。こういうよう

なことは、一体法的に見まして、私は

は、いわゆる有効需要の喚起といふ方

面で物資の需給調整を図るという方

になりますが、只今のところでは、全

て需給のバランスといつものがあるか

必要であるならば、どうしても事業者

どうか、需給調整法を審議するに当り

○政府委員(増岡尚士君) 只今の生糸

或いは組織物の関係につきまして、業

者の申合せ等によつて休業するとい

うふうに考えます。

○帆足計君 この法案は事業團体に関

係のある法案であります。只今、例

えば生糸が暴落しまして組織物業者が

申合せをして一齊に休業しております

。國に原料があり設備があり、そ

してこれを……組織物は我々は決して

不必要でなく、使いたいのであります

が、ただ金がないという経済政策の

行過ぎのデフレから、ただそれだけの

理由のために工場が閉鎖されるという

ことが行われておりますが、こ

れが自由主義的な資本主義機関の基本

的な欠陥であつて、近來の社会問題は

すべてここから発生しているわけであ

ります。ところが最近組織物業者がこ

れに対処する方法が、適切な方法がな

いために休業の申合せをして、そし

て暫く滞貨が捌けるまで仕事を止める

というような申合せをしておることが

新聞に載つております。こういうよう

なことは、一体法的に見まして、私は

は、いわゆる有効需要の喚起といふ方

面で物資の需給調整を図るという方

になりますが、只今のところでは、全

て需給のバランスといつものがあるか

必要であるならば、どうしても事業者

どうか、需給調整法を審議するに当り

ます。この問題は、常に過剰生産又は過

剰統制から免がれたために、一應自

由経済に戻るというのに大きな自主

性も必要と思うのですが、そのあとに

来ておるのは直ちに過剰生産又は過

剰買賣力といつものが、これが全資本

主義機関を驚かせる程の基本的矛

盾、大東亜戦争も、日本等が誤まつた

問題につきましては、只今のところま

だそれが公正取引に反するかどうかと

いうふうに考えます。

○帆足計君 そこで私はこう思ひます

が、たゞ金がないという経済政策の

行過ぎのデフレから、ただそれだけの

理由のために工場が閉鎖されるとい

うふうに考えられます。従つて繰返す

ように考えますが、さようない一時的な

過剰物資の処理といつうことはむづかしいとい

うふうに考えられます。従つて是正取引

を直ちにこの法規の運用によつてそれを

処理するといつうことはむづかしいとい

うふうに考えられます。従つて思想対策としましても、経

済政策は学んでないといふことで、そ

のあとに何らかの問題になると思ひます。

私は是認されんことになると思うので

はつきりした経済政策、理論的見通し

といつものを持つていかなければ、もは

や資本主義といつもののは大衆によつて

はいふうにして探るといつうための

いうものが当然政府当局としても研究されておらねばならん。又経済安定委員会としても、需給調整に関する法案を審議して、過去の過剰物資対策としても需給調整法は臨時に一年延ばして、過剰物資についての調整法も、それについての方法論だけでも予めここで審議して考えられているということであつて、その準備がはつきりなわけで、初めて将来安定への準備ができるわけであつて、その準備がはつきりなされてしまいということは、私は極めて遺憾であると思っております。従つて、我々が需給調整法の一年延長を承認し、仮に今日通過させるとしましても、その場合に更に大きな問題が背景にあることを我々が十分知つております。政府に対してその調査と立案を要求したことだけは国民の耳に止めてしまつて、審議が進んでいるということではなくれば、誠に私は相済まん次第でありますと考へております。ウエルシニエ氏は、二、三年前にこのことを指摘しましたときには、政府当局並びに関係当局では、現在は過剰物資に対する対策といふか、その觀点から一つ考へて貰いたい、生産過剰となる恐慌の危機が来たときにどういう統制方式を探るかということは、そのときに考へたらよからうといふようなお話をした。まあ当時はそういう状況でありましたので、我々も口をつぐんでおつたわけであります。ところがもはや今日恐慌が全面的な法案を準備されると言いますけれども、私は全業種に亘つてこの問題が起ると思います。それを一体どういうふた的な現象になり、そして政府委員は必要に応じて各業種別に需給調整の新资本主义の修正の形態において打開する

るかということを政府委員にお聞きすることとは実は無理であつて、内閣の大臣諸公自身が今から考へて置かねばならないに拘わらず、何らそれに対する対策がない。最近民主党におきましては、いかにもスローガンだと思つております。それで結局、公正競争を確保し、企業の合理的な存在を確保するためには、やはり政策と法案が準備されねばならん。ところが一向されない。現に例えれば雑誌にしましても、一月号の雑誌が十月の末に出て、これは明らかに不正競争である。不正競争に対して仕方がない……必要に応じて、又司令部の示唆もあつて業界が申合せをして、一月号の雑誌がせめて十二月過ぎでなければ出しまいという申合せをして、又下劣なエロ雑誌が氾濫しておるので対して、そういうようなエロ記事は正しくいう申合せをした。この申合せは、即ち不羈奔放なホーテントット達の自由競争を明らかにチエックしたものであつて、自由に対する侵害であるということが当然にホーテントットの諸君からは言い得るわけであるが、併し人類としてはそういう侵害が人類の共同生活のために必要であれば、ホーテントットの自由はこれを抑制される。人類の自由を守るために、そういう公正、協同のルールが必要であるという主張からすれば恐らく黙認されないと思ひます。これはホーテントット的な自由主義競争から言ふならば明らかに不埒な干渉である。エロ

誌を出そうが、正月号を九月に出そうが俺の自由だ、嫌ならお客さんが買わなければいい。これをお客様が買以上はそれは自由であるという論理の方が、素朴な自由主義の観点から言えば筋道が通つておるわけです。然るに世の常識あるコンモンセンスといふものから見れば、それはそういう主張が間違つておるのであつて、或る程度の統制といふような、自粛といふような協調といふようなものが必要である。そうであるとしたならば、同じことが経済界に対しても言えるわけです。悪い品物を作つたり、やたらに販売競争を行うということに対しては、やはりエロ雑誌の自粛と同じようく業界が自粛する、又は消費者、勤労者の参加した委員会のようなものがあつて、そういうものが認めた場合に、需給のバランスのための適切な処置をとり得るといふ社会の安全弁がなければ、恐慌を防止することはできない。こういう問題に対しては当然政府側としては需給調整法の審議に当つて、るべき委に今後の経済の安定について方法と政策が示さるべきであるにも拘わらず、論議されていない。私は政府当局に対して、あのときはウエルシユさんに対して独占禁止法というものが不正な財閥的私的独占を禁止しようとしたその意向を了として、我々は賛成して今まで来たわけですから、その馬鹿の一つ覚えだけはどうにもならない状況であつて、現在では一方において不正な私的独占を鎮圧すると同時に、他方においても公共的な協同とバランスを確保するための措置をどういう形で確保するかとすることが準備されておりまして、もはや今年、来年は私

は合理的に乗り越えることは困難でもうお尋ねをしたわけですが、差迫つた審議にこれ以上論議をしましても間に合いませんことですから、私共一議員としてこういう極めて深刻な疑問を持つておるということを、政府委員を通じて政府の政策に一つ将来反映させて頂きたい、こういう趣旨で意見を述べた次第であります。

○委員長(佐々木良作君) 外に本法案に対する御質問ありませんか。

○奥むめお君 この前この法律を延長するときにもそういう意見が出ていたのですが、これはとにかく非常に産業の上に、又消費生活の上に重大な影響を直ちに及ぼすものなんですか、いわば役所に対して、官庁に対して白紙委任状を出したようなものであるから、あと法律の経過がどういうように行われておるかということを我々も知らなければならぬ。何か検索といいうような報告的なものがあるということを伺つたと思うのですが、まあ又今度これを延長するという時期になりまして、何か印刷物ができるとか、そのとき懇談会の席上だつたと思いましたが、まだそのままになつておりますが、それはこの際言わない、そのまま問わないといったましても、今日のようく統制撤廃と、それと統制との混乱の時期に、私の消費生活といふものはまるで役所の方針一つで翻弄されておるという形も私はなくはないと思ふのですよ。ですからこういう白紙委任状で委された法律に対する現実の生活がどうであるかといふ是当り當面の問題としてどういう見通しを持つておられるかということを私は一つ聞きたい

りこの間の座談会のときには機器品の切符制は統くとおしゃつたが、その後の新聞を見ると四月、五月は外すと、こう書いてある。こういう臨時措置が決まつたらしいですけれども、実際の生活から見ますと、切符なんか何もなしでも何でも買える。却つて切符があると邪魔になつて来る。すると役所では机上で立案をしていらつしやるでしようけれども、現実の生活の面でどうあるかということをお知りになることが今程必要なときはないと思うのですが、今の臨時措置としても、現実どういうふうな、今の統制がどうなつているかということや、見通しといふことも、民間とそれから役所の立案なさる方との間に協議して見たり、あるいは対話を合つたり見通しを相談して見たりするような機關をお作りになりましたが、大体の傾向としては、その意思はないか。そういう計画はおありになるかどうかということを御説明頂きたいと思います。

規つてよろしいといふな規定かを
るわけであります。この規定は財産及

つきりと改正をいたしたいと思つておるのであります、それまでの期間に

して、帰国を余儀なくされる方々も出ております。その場合に例えれば歯科の

○委員長(佐々木良作君) それでは本案に対する質疑はこれで終局したもの

きめしてもケインズ等の学説においては、取上げられた。アメリカにおいてはニ

ニューディール思想並びにその政策体系によつて半ば解決せられたことによつて、資本主義は又異なる意味において合理性を主張し得ることが許されておるわけですが、この問題につきましては、二年ばかり前にウエルシエ氏、その他政府委員に御質問しましたときに、私が記憶しておる限りにおきましては、今は過少生産のときだからこれでよいのではないか、又過剰生産又は恐慌が来たならばそのときに考えようといふようなお言葉でありました。ところが今や正にそのときが来まして、これについての経済政策の方法論なり、資本主義修正の理論体系なり、実際的政策の準備をしておきませんと、もはや統制のあとに来るものに対し手遅れになりまして、不当なる損害と不安と苦痛を国民に與えるというような段階に差迫つております。従いまして、私は本日政府委員にこの問題につきまして、御答弁を承わらうとも思いませんし、又これは本来ならば、内閣それ自身が深く考えるべき問題であろうと思いますが、同時に我々は占領下にありますて、占領の政策の粹に協力しながら政治をせねばならんという不幸なる敗戦の時代にありますから、一つ公正取引委員の皆様におきましても、一方において過占を取締らなければならぬ。然るに現在恐慌に直面している。他方において公正なる行動と、国民經濟に対する過占禁止法の今後の在り方にについて、司令部当局はどういうふうに考えられるかということについて、皆様は我々國民を代表して折衝の任に當つているわけでありますから、

一つ十分に論議をして頂いて、そして
司令部当局の考え方、又公正取引委員会
の考え方を適当な機会に安定期員会にお
いてお聴かせ願いたいということを、
本日重要法案の審議をいたすにつきま
して、御注文いたしたいと思いまして
申上げるわけであります。

ござります。よりまして本案は原案通り可決すべきものと決定いたしました。尚委員長の口頭報告は、例によれば、尚としてこの委員会における質疑応答の要旨、討論の要旨及び表決の結果を報告することと御了解願いたいと思いますが、御異議ございませんか。

部を改正する法律案を議題にいたしましたが、質疑終了で先程打切りました。が、討論に入りたいと思いますから、御意見がありましたら御開陳を願いたいと思います。特にございませんですね。それでは特に御意見もありませんから、討論は終局したものと見まして採決に入りたいと思います。外国為替

○委員長(佐々木良作君) それでは本日の委員会をこれで閉会いたすことにいたします。
午後零時三十二分散会
出席者は左の通り。
委員長 佐々木良作君
理事 一 西川 昌夫君

ございます。よりまして本案は原案通り可決すべきものと決定いたしました。尙委員長の口頭報告は、例によりましてこの委員会における質疑応答の要旨、討論の要旨及び表决の結果を報告することと一つ御了承願いたいと思いますが、御異議ございませんか。

○帆足計君 若し皆様のお許しがありますれば、私が本日注文を発した点だけを、ほんの一言でも結構ですから御指摘願いたいのです。その指摘なしにこの法案を通したとすれば、私は怠慢であるとして考えておられますから……。

○委員長(佐々木良作君) ちよつとお待ち下さい。今の問題は物調法の方に特に関係がありますが。それとも為替管理法の方に特に関係がありますが。○帆足計君 公正委員並びに安本の長官にお尋ねしたのは物調法の方であります。先の中国人の問題は、管理法。

○委員長(佐々木良作君) 今の帆足さんの意見も含めまして委員長に御一任願えますか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長(佐々木良作君) よろしくござりますね。そのように委員長の方において取扱うことにしておきます。

それから次に、委員長から議院に提出する報告書に多数意見者の御署名をお願いすることになりますから、順次一つ御署名を願います。

多數意見者署名

西川 昌夫	川村 松助
左藤 義詮	奥 むめお
和田 博雄	帆足 計
島津 忠彦	小林米三郎

部を改正する法律案を議題にいたしましたが、質疑終了で先程打切りました。が、討論に入りたいと思いますから、御意見がありましたら御開陳を願いたいと思います。特にございませんですね。それでは特に御意見もありませんから、討論は終局したものと見まして採決に入りたいと思います。外國為替法律案について採決いたします。同法案を原案通り可決することに御賛成の方の御掌手をお願いいたします。

〔絶員掌手〕

○委員長(佐々木良作君) 満場一致でございます。よつて本案は原案通り可決すべきものと決定いたしました。尙前に提出する報告書につきまして、多數意見者の御署名を順次お願いいたします。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長(佐々木良作君) 御異議ないものと認めます。それから同様に議院に提出する報告書につきまして、多數意見者の御署名を順次お願いいたします。

○委員長(佐々木良作君)	それでは本日の委員会をこれで閉会いたすことになりました。
午後零時三十二分散会	出席者は左の通り。
委員長	佐々木良作君
理事	
委員	
政府委員	
経済安定事務官	
官房貿易局長	西村 久之君
経済安定事務官	谷林 正敏君
官房動力局長	増岡 尚士君
経済安定事務官 (生産局次長)	前谷 重夫君
経済安定事務官 (経済安定本部 総裁官房次長)	河野 通一君
大藏事務官 (理財局長)	伊原 隆君
公正取引委員会事務局 (総務部長)	内田 薩雄君
説明員	
通商産業事務官 (通商局次長)	松尾泰一郎君

外國為替及び外國貿易管理法の一部を改正する法律案

外國為替及び外國貿易管理法の一部を改正する法律

外國為替及び外國貿易管理法（昭和二十四年法律第二百一十八号）の一部を次のように改正する。

附則第一項但書中「三月三十一日」を「六月三十日」に改める。

この法律は、公布の日から施行する。

三月三十日本委員会に左の事件を付託された（予備審査のための付託は三月二十九日）

一、外國為替及び外國貿易管理法の一部を改正する法律案